

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300204		
法人名	有限会社福祉サポート仙台東		
事業所名	グループホーム憩いの園	ユニット名	GH1F
所在地	仙台市若林区上飯田1丁目3番31号		
自己評価作成日	令和 1年11月 20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 1年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念の「笑顔あふれる家」「あなたがあなたらしく過ごせる家」「安心できるひだまりのような家」に基づいて、ご利用者様に充実した暮らしを提供できるよう努めております。生活の役割の中で、ご利用者様ができることを探し、職員と一緒に食事の準備をしたり、買い物のお手伝いをしていただいております。季節ごとに行事を開催しており、恒例となりました憩いの園秋祭りでは地域住民の方、近隣保育園等をご招待しております。今年度からは、憩いの園グループの上飯田地区を二つに分け秋祭りを開催いたしました。医療体制としては訪問看護ステーションと連携し、週に一度の健康管理訪問と24時間の医療相談・訪問の体制を整え、健康面でもご利用者様に安心していただけるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

上飯田の住宅街にあるホームは、法人の住宅型有料老人ホームと併設した2階建てで、エレベーターの設置がある。1階と2階に分かれた2つのユニットは全面バリアフリーで、入居者が寛ぐフロアと脱衣所は床暖房である。事務スペースとキッチンに囲まれたフロアでは、入居者が塗り絵やテレビ観賞、新聞に目を通しながら寛ぐ姿がある。1カ月に1回程度は花見や農業園芸センター等への外出を計画し、全員が楽しめるドライブや外食をしている。外部研修受講等への有給休暇や費用補助があり、職員負担の軽減がある。職員が交替で週の目標を掲げ、全員で実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム憩いの園)「ユニット名 GH1F」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングで理念を皆で読み上げ、共有を図っております。また、管理者から理念に基づく支援の在り方についてミーティングを通して職員に伝えております。	法人とホーム理念を基に、ユニット毎に職員が交替で「笑顔であいさつ」や「外出、散歩をしよう」等の週間目標を立て、実践している。年度末の職員会議で、ホーム理念の振り返りと、見直しをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ほのぼのの沖野見守り隊(認知症見守り支援)に登録しております。仙台市や包括主催の地域ケア会議、意見交換会等に参加させて頂き、交流を図っております。	ホームの秋祭に保育園児や地域お茶っこ会等の約30名が参加し、盛大に開催した。保育園の焼き芋会に招待され、ほぼ全員が参加し交流した。敬老会やクリスマス会に、歌や踊り等の地域のボランティア訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症利用者の事例報告をし、症状に対しての具体的支援方法についてお話しさせていただいております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見、提案を事業所で活かせるよう、ケアカンファレンスやミーティング等で話し合いをしております。	町内会長、民生委員、包括職員等が参加し、町内会活動等の情報交換がある。地域の方の「見守りをどうすべきか」の意見に、地域包括へ相談をした。入居者の事例報告や職員研修参加等の紹介がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	仙台市の研修に参加させていただき、必要に応じ質問し、指導をいただいております。	生活保護受給の更新手続きや、入院の際に、福祉センター保護課に相談した。ケアプランアセスメントについて、実務的な相談をし指導を受けた。市主催の集団指導、アセスメントの仕方等の研修に参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度の身体拘束委員会にて検討会を実施し、検討内容を全職員に対し身体拘束廃止への理解を深められるよう指導しております。	日中の玄関の施錠はないが、ユニット毎の入口にセンサーを取り付け施錠している。市の身体拘束関連研修の案内があり、参加予定である。遠くまで離脱し、通行人の情報で大事に至らなかった経緯があり、近隣協力体制の必要を感じた。	町内会等の場を通して近隣の方々に、理解して頂き、見守り、声掛け、連絡をしてもらえる関係構築を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修では、自身のケアについて振り返りを行いながら虐待防止の指導に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方の後見人と電話や書面にて情報交換しており、それを職員にも伝えております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な理解が得られるよう丁寧な説明を心掛けております。不明な点への意見に対してもわかりやすく伝えられるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時にご利用者の状況を話しながら意見交換が行えるよう、話しやすい雰囲気作りを心掛けております。	家族との面会時に落ち着きがない入居者を「医者に診せてほしい」との要望に応じ、受診した。入居者同士で衣服を譲っている家族から他人の衣類があるとの指摘に、洗濯後に本人に戻すよう支援をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	夜勤従事者に対し、業務に対する悩み等を聞く面談を実施しました。また、それ以外の職員についても随時管理者より日頃の職務に対するの意見交換を行っております。	車椅子に乗ると身体を傾けたままになる入居者に、ティルト式車椅子の提案に応じた。実務者研修費用の一部は法人で支援し、残りは給与での分割支払いできる支援がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を設け、職責・職務内容・手当等を明確にすることで、各自が目標を持って働ける環境を整備しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には自分が受講したい研修を年に1回(就労日に費用会社負担で)受講できる制度や資格取得においても優遇制度を設けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護初級者、中級者、役職者それぞれに合わせた研修や勉強会に参加してもらい、情報交換等を通じて、サービスの質の向上に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初は、新しいところでの生活に多くの不安があるということを十分に配慮し、ご利用者が安心して笑顔でいられることを真摯に考えることから始め信頼関係の構築に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の際にサービスに対する疑問や不安などをしっかり傾聴し要望反映に努め、その後のより良い信頼関係を構築できるようにしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時にご本人・ご家族の必要としているサービスについてじっくり検討し、状況に応じ弊社の他のサービス事業所への利用相談も行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様には生活の役割を分担して行ってもらい、共に暮らしを支えあえる関係の構築に努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には家族としての思いを傾聴するようにしております。家族の懇親会の開催も企画しましたが、今年度はご家族様達との都合がつかず実現できなかったのが今後の課題となっております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活の延長として過ごしていただき、人や場所との関係が続けられるように支援しております。	馴染みだった友人や隣人等が訪問した際にはお茶を出し、居室やフロアで談笑している。スーパーやドラッグストアでの日用品等買出しの支援をしている。家族との外出時に、理容や買い物を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係について職員は記録等を用い把握に努め、どのような環境がそれぞれのご利用者様の関わり合いに適しているか随時検討しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じ、各種相談は受け付けております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の会話やご家族からの意向について聞き取り、困難な場合は以前の暮らしぶりから本人本位となるよう努めております。	入浴や就寝介助等の1対1で聞く話を把握し、食事の座席配置等に反映している。フロアでの時間は、テレビ観賞や塗り絵等、思い思いに過ごしている。常に入居者に合わせたペースの支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族・以前のケアマネ等各種関係者から情報をいただき、それまでの生活歴の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれのご利用者様に担当職員を設け、現状把握をしております。把握した情報をもとにサービスへ繋げております		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員・計画作成担当者・管理者で介護計画について話し合い、担当者会議にてご本人・ご家族に確認しております。	入居者1、2名毎に担当している。入居者毎の短期目標を目標達成シートに載せて、日々の確認をしている。変化がある場合はプランを見直している。担当者会議で作成したプランを家族等に説明し、署名を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録として、介護記録・バイタル表・排便管理表・通院記録・看護記録等多様な記録にて状況把握し、また、職員同士の情報共有をしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	従来サービス以外の要望があった場合、社内で検討させていただき、状況に応じ意向に反映できるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の夏祭りにご利用者様と参加させていただいたり地域の方々と一緒に楽しんでいただけるよう支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの主治医に継続して診てもらうことを優先し、希望に応じ、住診医の紹介も行っております。	家族付添いのかかりつけ医受診が3名と、他の入居者は2週に1回の住診がある。訪問看護師が来訪している。訪問歯科は毎週来訪し、年1回は無料歯科の健診を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護記録や電話にてご利用者様の健康状態について報告し、指示をいただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に際しては、実態調査やサマリーを通し病院と連携を取り、ご利用者様が退院後も安心して暮らしていけるよう支援しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては、主治医の指示のもとご本人・ご家族・事業所で相談を行っております。それぞれがどのようなことを望むか、どのような支援ができるかを十分に話し合う機会を設け取り組んでおります。	重度化、終末期に伴う確認書の作成はあるが、入居時は家族等の心情に配慮して緊急時の対応説明のみを行っている。状況の変化に応じてホームでできるケアを説明し、確認書で家族等の同意を得ている。要望に応じて、今年も1名の看取りを支援した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人に事故対策委員会を設置しており、各事業所の委員を中心に事故発生時の対応について職員に指導しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練の際に災害時の避難誘導について確認をしております。	夜間想定訓練を含めて年2回の避難訓練を実施している。マニュアルは作成しているが、地域住民への呼びかけ、参加はない。1階部分からの災害発生を想定し、2階入居者の避難が、その階に留まっている。	入居者の安全面を第一に考え、地域住民への呼び掛けをしていただきたい。2階入居者の避難方法を具体的に検討をしていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の倫理規定を用い、尊厳やプライバシーについて指導し、ご利用者が安心して暮らしていけるケアができるよう研修しております。	挨拶や血圧測定等の些細な声掛けに苛立つ入居者に、本人が恥ずかしくないよう小声で呼びかけている。衣類を汚した際には、浴室やトイレに誘導し、入浴と着替えをする支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしからご利用者様の意向を聞き取るようにしており、ケアカンファレンスの時に職員で情報共有を図り、また、随時自己決定の支援ができるよう指導しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所側の都合にならぬよう、それぞれの生活リズムを尊重し、起床・就寝・食事の時間を作っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服をご自身で選べる方には自己決定できるように支援し、難しい方には本人本位となるよう努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備はご利用者様の状況に応じ、一緒に行っております。また、後片付けもご利用者様と分担して行っております。	食事は住宅型老人ホームと一緒に、調理専門の職員が作っている。毎日の楽しみであるおやつは、職員と一緒に買出しに行き、選ぶ楽しみがある。外出時にはファミレス等でのカレーや寿司の夕食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し、健康状態の把握に努め、その情報を主治医・訪問看護師とも情報共有を行い、その時に合った栄養バランスが摂れるよう支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、ご利用者様の状況に合わせ介助し、口腔内の清潔保持に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できるよう、それぞれの排泄パターンを把握し、声掛け・誘導を行っております。	リハパンにパッド使用の入居者が大半であり、極力トイレ排泄を支援している。転倒のリスクがある入居者4名は、夜間ポータブルトイレを使用している。就寝時は、約2時間毎の見守り対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護記録とは別に排便管理表を使用し排便間隔の把握に努めております。便秘にならぬよう食事・水分量にも気を配っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日・時間は予め設定されておりますが、ご利用者様の体調や気分に合わせて、常に変更できるような仕組みを取っております。	木曜を除く週2回、主に午前中入浴の支援がある。衣服を脱ぐのを嫌う入居者がいる。6名は、シャワー椅子を用いた2人介助の入浴である。ヒノキの香り等の入浴剤や、一番風呂を楽しむ入居者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・消灯の時間は設定しておらず、それぞれのご利用者様が安眠していただける環境整備に努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報のファイルを作成し、各職員が把握できるようにしております。また、薬についての疑問は主治医・看護師・薬剤師に随時確認を取るようにしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で家事、役割を分担し、行事・外出の企画も定期的開催して楽しみのある生活の提供に努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	定期的な外出支援を心掛け、希望にも沿えるよう意向を聴き取りながら支援させていただいております。	冬季を除き月1回程度の外出支援があり、閑上かわまちテラスや七夕ミュージアム等を楽しんでいる。職員と一緒に毎朝新聞を取りに行ったり、調理室へ容器返却しながら散歩を楽しんでいる。家族と一緒に定義山参拝や、通院時に外食を楽しむ入居者がいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭管理をご自身でされている方ではありませんが、事業所の買い物のお手伝いをさせていただく際、ご利用者様の能力に応じ支払いのお手伝いをさせていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話があった場合は、ご本人が大切な時間を過ごせるよう配慮しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には時季ごとに装飾を替え、季節感を感じられるようにしております。それらのご利用者様に不快感・混乱等を招かないよう配慮しております。	入居者が編んだ毛糸のリースを事務所前に吊るし、クリスマスツリーと調和した飾り付けになっている。あまり外出できない入居者の思いを汲み、季節感ある飾りつけ等に配慮している。大半の入居者は、日中フロアで新聞を読んだり、塗り絵をして寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の座席配置には気を配り、それぞれのご利用者様が安心して頂けるよう配慮しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室環境においては、ご本人・ご家族と相談し、自宅で使っていた馴染みの物などを持参していただくなどして、安心へ繋げられるよう努めております。	父親の肖像画や、家族が持ってきた犬のぬいぐるみを飾っている入居者がいる。インフルエンザ予防に家族が用意した空気清浄機付加湿器を置いている。居室清掃は、週1回のリネン交換時に職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの方の能力に合わせ、表示や目印を付けたり、色・配置などでわかりやすくすることで、出来るだけ自立を促せるよう支援しております。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300204		
法人名	有限会社福祉サポート仙台東		
事業所名	グループホーム憩いの園	ユニット名	GH2F
所在地	仙台市若林区上飯田1丁目3番31号		
自己評価作成日	令和 1年11月20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 1年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念の「笑顔あふれる家」「あなたがあなたらしく過ごせる家」「安心できるひだまりのような家」に基づいて、ご利用者様に充実した暮らしを提供できるよう努めております。生活の役割の中で、ご利用者様ができることを探し、職員と一緒に食事の準備をしたり、買い物のお手伝いをしていただいております。季節ごとに行事を開催しており、恒例となりました憩いの園秋祭りでは地域住民の方、近隣保育園等をご招待しております。今年度からは、憩いの園グループの上飯田地区を二つに分け秋祭りを開催いたしました。医療体制としては訪問看護ステーションと連携し、週に一度の健康管理訪問と24時間の医療相談・訪問の体制を整え、健康面でもご利用者様に安心していただけるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

上飯田の住宅街にあるホームは、法人の住宅型有料老人ホームと併設した2階建てで、エレベーターの設置がある。1階と2階に分かれた2つのユニットは全面バリアフリーで、入居者が寛ぐフロアと脱衣所は床暖房である。事務スペースとキッチンに囲まれたフロアでは、入居者が塗り絵やテレビ観賞、新聞に目を通しながら寛ぐ姿がある。1カ月に1回程度は花見や農業園芸センター等への外出を計画し、全員が楽しめるドライブや外食をしている。外部研修受講等への有給休暇や費用補助があり、職員負担の軽減がある。職員が交替で週の目標を掲げ、全員で実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム憩いの園)「ユニット名 GH2F 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングで理念を皆で読み上げ、共有を図っております。また、管理者から理念に基づく支援の在り方についてミーティングを通して職員に伝えております。	法人とホーム理念を基に、ユニット毎に職員が交替で「笑顔であいさつ」や「外出、散歩をしよう」等の週間目標を立て、実践している。年度末の職員会議で、ホーム理念の振り返りと、見直しをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ほのぼのの沖野見守り隊(認知症見守り支援)に登録しております。仙台市や包括主催の地域ケア会議、意見交換会等に参加させて頂き、交流を図っております。	ホームの秋祭に保育園児や地域お茶っこ会等の約30名が参加し、盛大に開催した。保育園の焼き芋会に招待され、ほぼ全員が参加し交流した。敬老会やクリスマス会に、歌や踊り等の地域のボランティア訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症利用者の事例報告をし、症状に対しての具体的支援方法についてお話しさせていただいております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見、提案を事業所で活かせるよう、ケアカンファレンスやミーティング等で話し合いをしております。	町内会長、民生委員、包括職員等が参加し、町内会活動等の情報交換がある。地域の方の「見守りをどうすべきか」の意見に、地域包括へ相談をした。入居者の事例報告や職員研修参加等の紹介がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	仙台市の研修に参加させていただき、必要に応じ質問し、指導をいただいております。	生活保護受給の更新手続きや、入院の際に、福祉センター保護課に相談した。ケアプランアセスメントについて、実務的な相談をし指導を受けた。市主催の集団指導、アセスメントの仕方等の研修に参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度の身体拘束委員会にて検討会を実施し、検討内容を全職員に対し身体拘束廃止への理解を深められるよう指導しております。	日中の玄関の施錠はないが、ユニット毎の入口にセンサーを取り付け施錠している。市の身体拘束関連研修の案内があり、参加予定である。遠くまで離脱し、通行人の情報で大事に至らなかった経緯があり、近隣協力体制の必要を感じた。	町内会等の場を通して近隣の方々に、理解して頂き、見守り、声掛け、連絡をしてもらえる関係構築を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修では、自身のケアについて振り返りを行いながら虐待防止の指導に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方の後見人と電話や書面にて情報交換しており、それを職員にも伝えております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な理解が得られるよう丁寧な説明を心掛けております。不明な点への意見に対してもわかりやすく伝えられるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時にご利用者の状況を話しながら意見交換が行えるよう、話しやすい雰囲気作りを心掛けております。	家族との面会時に落ち着きがない入居者を「医者に診せてほしい」との要望に応じ、受診した。入居者同士で衣服を譲っている家族から他人の衣類があるとの指摘に、洗濯後に本人に戻すよう支援をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	夜勤従事者に対し、業務に対する悩み等を聞く面談を実施しました。また、それ以外の職員についても随時管理者より日頃の職務に対するの意見交換を行っております。	車椅子に乗ると身体を傾けたままになる入居者に、ティルト式車椅子の提案に応じた。実務者研修費用の一部は法人で支援し、残りは給与での分割支払いできる支援がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を設け、職責・職務内容・手当等を明確にすることで、各自が目標を持って働ける環境を整備しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には自分が受講したい研修を年に1回(就労日に費用会社負担で)受講できる制度や資格取得においても優遇制度を設けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護初級者、中級者、役職者それぞれに合わせた研修や勉強会に参加してもらい、情報交換等を通じて、サービスの質の向上に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初は、新しいところでの生活に多くの不安があるということを十分に配慮し、ご利用者が安心して笑顔でいられることを真摯に考えることから始め信頼関係の構築に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の際にサービスに対する疑問や不安などをしっかり傾聴し要望反映に努め、その後のより良い信頼関係を構築できるようにしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時にご本人・ご家族の必要としているサービスについてじっくり検討し、状況に応じ弊社の他のサービス事業所への利用相談も行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様には生活の役割を分担して行ってもらい、共に暮らしを支えあえる関係の構築に努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には家族としての思いを傾聴するようにしております。家族の懇親会の開催も企画しましたが、今年度はご家族様達との都合がつかず実現できなかったのが今後の課題となっております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活の延長として過ごしていただき、人や場所との関係が続けられるように支援しております。	馴染みだった友人や隣人等が訪問した際にはお茶を出し、居室やフロアで談笑している。スーパーやドラッグストアでの日用品等買出しの支援をしている。家族との外出時に、理容や買い物を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係について職員は記録等を用い把握に努め、どのような環境がそれぞれのご利用者様の関わり合いに適しているか随時検討しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じ、各種相談は受け付けております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の会話やご家族からの意向について聞き取り、困難な場合は以前の暮らしぶりから本人本位となるよう努めております。	入浴や就寝介助等の1対1で聞く話を把握し、食事の座席配置等に反映している。フロアでの時間は、テレビ観賞や塗り絵等、思い思いに過ごしている。常に入居者に合わせたペースの支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族・以前のケアマネ等各種関係者から情報をいただき、それまでの生活歴の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれのご利用者様に担当職員を設け、現状把握をしております。把握した情報をもとにサービスへ繋げております		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員・計画作成担当者・管理者で介護計画について話し合い、担当者会議にてご本人・ご家族に確認しております。	入居者1、2名毎に担当している。入居者毎の短期目標を目標達成シートに載せて、日々の確認をしている。変化がある場合はプランを見直している。担当者会議で作成したプランを家族等に説明し、署名を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録として、介護記録・バイタル表・排便管理表・通院記録・看護記録等多様な記録にて状況把握し、また、職員同士の情報共有をしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	従来サービス以外の要望があった場合、社内で検討させていただき、状況に応じ意向に反映できるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の夏祭りにご利用者様と参加させていただいたり地域の方々と一緒に楽しんでいただけるよう支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの主治医に継続して診てもらうことを優先し、希望に応じ、住診医の紹介も行っております。	家族付添いのかかりつけ医受診が3名と、他の入居者は2週に1回の住診がある。訪問看護師が来訪している。訪問歯科は毎週来訪し、年1回は無料歯科の健診を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護記録や電話にてご利用者様の健康状態について報告し、指示をいただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に際しては、実態調査やサマリーを通し病院と連携を取り、ご利用者様が退院後も安心して暮らしていけるよう支援しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては、主治医の指示のもとご本人・ご家族・事業所で相談を行っております。それぞれがどのようなことを望むか、どのような支援ができるかを十分に話し合う機会を設け取り組んでおります。	重度化、終末期に伴う確認書の作成はあるが、入居時は家族等の心情に配慮して緊急時の対応説明のみを行っている。状況の変化に応じてホームでできるケアを説明し、確認書で家族等の同意を得ている。要望に応じて、今年も1名の看取りを支援した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人に事故対策委員会を設置しており、各事業所の委員を中心に事故発生時の対応について職員に指導しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練の際に災害時の避難誘導について確認をしております。	夜間想定訓練を含めて年2回の避難訓練を実施している。マニュアルは作成しているが、地域住民への呼びかけ、参加はない。1階部分からの災害発生を想定し、2階入居者の避難が、その階に留まっている。	入居者の安全面を第一に考え、地域住民への呼び掛けをしていただきたい。2階入居者の避難方法を具体的に検討をしていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の倫理規定を用い、尊厳やプライバシーについて指導し、ご利用者が安心して暮らしていけるケアができるよう研修しております。	挨拶や血圧測定等の些細な声掛けに苛立つ入居者に、本人が恥ずかしくないよう小声で呼びかけている。衣類を汚した際には、浴室やトイレに誘導し、入浴と着替えをする支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしからご利用者様の意向を聞き取るようにしており、ケアカンファレンスの時に職員で情報共有を図り、また、随時自己決定の支援ができるよう指導しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所側の都合にならぬよう、それぞれの生活リズムを尊重し、起床・就寝・食事の時間を作っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服をご自身で選べる方には自己決定できるように支援し、難しい方には本人本位となるよう努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備はご利用者様の状況に応じ、一緒に行っております。また、後片付けもご利用者様と分担して行っております。	食事は住宅型老人ホームと一緒に、調理専門の職員が作っている。毎日の楽しみであるおやつは、職員と一緒に買出しに行き、選ぶ楽しみがある。外出時にはファミレス等でのカレーや寿司の夕食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し、健康状態の把握に努め、その情報を主治医・訪問看護師とも情報共有を行い、その時に合った栄養バランスが摂れるよう支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、ご利用者様の状況に合わせ介助し、口腔内の清潔保持に努めております。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できるよう、それぞれの排泄パターンを把握し、声掛け・誘導を行っております。	リハパンにパッド使用の入居者が大半であり、極力トイレ排泄を支援している。転倒のリスクがある入居者4名は、夜間ポータブルトイレを使用している。就寝時は、約2時間毎の見守り対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護記録とは別に排便管理表を使用し排便間隔の把握に努めております。便秘にならぬよう食事・水分量にも気を配っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日・時間は予め設定されておりますが、ご利用者様の体調や気分に合わせて、常に変更できるような仕組みを取っております。	木曜を除く週2回、主に午前中入浴の支援がある。衣服を脱ぐのを嫌う入居者がいる。6名は、シャワー椅子を用いた2人介助の入浴である。ヒノキの香り等の入浴剤や、一番風呂を楽しむ入居者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・消灯の時間は設定しておらず、それぞれのご利用者様が安眠していただける環境整備に努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報のファイルを作成し、各職員が把握できるようにしております。また、薬についての疑問は主治医・看護師・薬剤師に随時確認を取るようにしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で家事、役割を分担し、行事・外出の企画も定期的開催して楽しみのある生活の提供に努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出支援を心掛け、希望にも沿えるよう意向を聴き取りながら支援させていただいております。	冬季を除き月1回程度の外出支援があり、閑上かわまちテラスや七夕ミュージアム等を楽しんでいる。職員と一緒に毎朝新聞を取りに行ったり、調理室へ容器返却しながら散歩を楽しんでいる。家族と一緒に定義山参拝や、通院時に外食を楽しむ入居者がいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭管理をご自身でされている方はおりませんが、事業所の買い物のお手伝いをさせていただく際、ご利用者様の能力に応じ支払いのお手伝いをさせていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話があった場合は、ご本人が大切な時間を過ごせるよう配慮しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には時季ごとに装飾を替え、季節感を感じられるようにしております。それらのご利用者様に不快感・混乱等を招かないよう配慮しております。	入居者が編んだ毛糸のリースを事務所前に吊るし、クリスマスツリーと調和した飾り付けになっている。あまり外出できない入居者の思いを汲み、季節感ある飾りつけ等に配慮している。大半の入居者は、日中フロアで新聞を読んだり、塗り絵をして寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の座席配置には気を配り、それぞれのご利用者様が安心して頂けるよう配慮しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室環境においては、ご本人・ご家族と相談し、自宅で使っていた馴染みの物などを持参していただくなどして、安心へ繋げられるよう努めております。	父親の肖像画や、家族が持ってきた犬のぬいぐるみを飾っている入居者がいる。インフルエンザ予防に家族が用意した空気清浄機付加湿器を置いている。居室清掃は、週1回のリネン交換時に職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの方の能力に合わせ、表示や目印を付けたり、色・配置などでわかりやすくすることで、出来るだけ自立を促せるよう支援しております。		